

生涯学習情報紙

発行：大和村教育委員会事務局・中央公民館

第352号

2023



鹿児島県指定文化財「大和浜の群倉」

3月7日に鹿児島県指定文化財「大和浜の群倉」の補修作業が終了しました。経年劣化により屋根や土台の骨組みまで腐食が進んでいました。業者の方で、腐食部分を取り除き、奄美群島の他の地区では使用されていない大和村ならではの「リュウキュウチク」を使用し、土台の補修及び 葺き替えを行いました。



修復直後の高倉

子ども読書週間について

4月23日は『子ども読書の日』です。この日から、5月12日迄、子ども読書週間です。これは、国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるために設けられました。この日を中心に、学校・地域・家庭を通じて、子どもの自主的な読書活動がより一層進められることが望まれています。

公民館講座募集中

令和5年度公民館講座の講座生募集中です。今年度は18講座を予定しています。多くの皆様の申込をお待ちしています。詳しくは中央公民館57-2311まで。



三味線講座の発表



(しげき校長の大和見聞録)

～ 津名久焼について ～

津名久焼は明治初期に鹿児島から来島した6人の陶工によって始められ、**大和村の津名久で明治8年から約3年間**作られた陶器の総称です。生産や流通の実態はまだ不明の部分がありますが、使用している釉薬（ゆうやく：陶器の表面に塗られたガラス質のもの）から薩摩焼の一つである**苗代川焼（なえしろがわやき：現在の日置市美山で作られている焼物）**の技術の影響を受けていることが伺えます。江戸時代当時の奄美は焼物を生産しておらず、琉球や薩摩からの搬入品を使っていたため、甕や壺は高価で貴重品でした。これに目を付けた薩摩焼の陶工が明治になって焼物に適した土が採れる大和村に移住し、焼物の生産を始めたものと考えられています。津名久集落にある当時の陶工がいた工房跡には案内板が設置されています。県道のすぐ横にあり、既によく知られています。村内に6点の伝世品（でんせいひん：親から子へ代々受け継がれてきたもの）があり、下の写真は防災センターに保管されているものです。口ロによって成形された短頸壺（たんけいこ：頸の部分の短い壺）です。土は明褐色で胴部の下まで暗茶褐色の釉薬が掛けられており、頸部から肩部にかけてつや消しの焦げ茶色の釉薬が二重掛けされています。口縁部の一部が欠損していますが、これは一般家庭で穀物の種や液体の保存用、あるいは茶壺として使われていた日用品と思われます。この津名久焼の窯は言い伝えでは「**津名久で3年ほど焼物を作ったが、ある日の朝、陶工の家のかまどから煙が立たなかった。土地の人が訪ねると、陶工は忽然と姿を消していた**」そうです。

津名久焼は生産規模が小さく、生産期間が短いので製品の流通量もそれほど多くはなかったと思われますが、今でも村内の旧家の倉庫や蔵の奥で人知れずひっそりと眠っているものが意外とあるのかもしれませんよ。

短頸壺のサイズ：器高25.7cm、口径10.3cm、底径16.7cm



津名久焼



令和4年度は、コロナの影響で中止になる大会もありましたが3年振りとなる大和まほろばウォーキング大会や公民館の閉講式も開催し、少しずつ日常が戻りつつあります。令和5年度は、鹿児島国体や奄美群島復帰70周年の記念行事が計画されています。ご協力よろしくお願いします。今後も【人づくり・地域づくり・夢づくり】社会教育活動に取り組んでいきたいと思ひます。